

# 夢きよく 道はるか

R4.5.31

文責 鈴木 仁



## 東中赤学年 古都へ

5月16日(月)から18日(水)の2泊3日、修学旅行に行ってきました。1日目の奈良公園散策、2日目京都市内の班別自主見学を終え、頑張っている生徒にも先生方にも疲れが見え始めた3日目のことでした。1組のクラス別見学のバスが、京都市内のどこかの中学校の横を通りました。車窓から眺めると、グラウンドでは体育の授業なのでしょう、Tボールに取り組む生徒の姿を見つけました。あたり前のことですが、この日が平日であることに気がつきました。

本校にとって2年ぶり、私自身にとっては約10年ぶりの奈良、京都は、やっぱり厳かで優しく、気持ちをわくわく、そしてほっとさせてくれる場所でした。コロナ禍の影響でしょうか、昔買い物をした店が閉まっていたり、立ち止まって見ることでできない仏像を、ゆっくりと見つめることができたりと、いつもと違うところもありましたが、清水の坂や、北野天満宮の混雑を見ると、昔の思い出もよみがえり、何かタイムスリップをしたような気持ちにもなりました。そして、何より変わらないと思ったのは、まちのあちらこちらに小グループで自主見学をする中学生を見かけ、この場所が、中学3年生の1年の成長が始まる大切な場所であるということでした。

非日常である行事は、子供たちの成長を促します。日頃、学校内でできることも気持ちの高揚感からできなくなることもあります。悪気はないのですが、話を聞けなかったり、黙食が多少できなかつたりすることがありました。でも、200人以上の旅行を成功させるためには、みんなが楽しい旅行にするためには、これではいけないと、子供たち自身が気がつきました。話したい“けど”、もっと買い物したい“けど”、何を優先させるべきか一人ひとりが考えました。そして、話したい“のに”、買い物したい“のに”、協力している人たちがいることにも気がつき始めました。3日間で子供たちは個人としても、集団としても確実に前に進み、これから取り組んでいく“最後の”がつく行事に向かう態勢づくり、卒業へ向かう日常生活の態勢づくりはできたように思いました。

1組と行動をとともにした私ですが、ベテランのバスガイドさんが、小瀬の駐車場に到着する直前のあいさつで、子供たちに泣きながら話しをしてくれました。1日目と3日目の2日間、同じバスを利用しましたが、子供たちを見て、その成長を自分のことのように喜んでくださいました。コロナ禍での修学旅行を成功させるという同じ「想い」をもつ仲間として、行動をとともにして下さったことがよくわかりました。将来に向けて、「働く」ということの意味、出逢いを大切にして社会で生きるということの意味を、子供たちも学ぶことができたような気がしました。

行事は、多くのことを子供たちに教えてくれます。また、だからこそ、日常生活を大切にして、学んだことを生かしていかなければいけないと思います。修学旅行を無事やり遂げることができて、本当によかったです。PTA役員皆さんの駐車場の誘導等を含め、保護者の皆様のご理解とご協力に感謝いたします。



# 行事をやり遂げるために

3 学年主任である猪股先生は、修学旅行から帰ってきて、おそらく泣いていたのだと思います。2 年間、奈良、京都への修学旅行に行くことができず、感染症も心配な状況で、延期も覚悟しながらの旅行でした。日々状況をチェックし、気を配り、可能な限り万全を期しての取組でした。

1 つの行事をやり遂げるためには、沢山の人の力が必要になります。例えば、修学旅行出発の朝には、東中の伝統とも言える車の誘導があります。本校には大型バスが入ることができないので、善光寺様のご厚意により、生徒の集合場所が善光寺の駐車場になります。朝 5 時頃から半数近くの職員が集合し、車の誘導をします。保護者の皆様のご協力もあり、スムーズにできることを大変ありがたく思っています。

5 月 30 日(月)には生徒総会が行われましたが、ここ 2 年は代表生徒による話し合いでした。今年度は、リモート等を上手に使い、全校生徒が話し合いに参加できる方法を取り入れました。生徒会主任である小池先生を中心に工夫して取り組みましたが、多くの準備が必要となり、子供たちの成長のために何が必要なかをよく考えての取組でした。

そして、6 月 1 日(水)より 1 泊 2 日で、1 年生が御殿場に林間学校に出発します。学年主任の佐野先生をはじめ、1 年の先生を中心に入念な下見を行う等、精一杯取り組んでいます。1 年生が成長する機会となるよう、やり遂げたいと思っています。ご協力、よろしくをお願いします。

## 部活の東中

先日、見慣れない電話番号からの着信がありました。電話をかけ直してみると、10 年前に私が本校で顧問をしていた部活動の卒業生からでした。何でも、同級生がコロナ禍でなかなかできなかった結婚式を挙げるので、ビデオメッセージを贈って欲しいとのこと。数日して、その卒業生が本校にやって来て、私のメッセージを収録してくれました。

メッセージで何を伝えようか考えながら、様々なことを思い出しました。収録に来た卒業生はレギュラーで、結婚式を挙げる卒業生はレギュラーでなかったこと。その代は、県内の全ての大会で優勝したこと。県総体の決勝リーグは、全てがフルセットだったこと。レギュラーとかレギュラーでないとかは関係なく、互いを認め合っていたこと、、、。「あなたが、チームを支えてくれましたね。」そんな内容のメッセージを贈り、今も部活動の仲間が結びついていることを、うれしく思いました。

今、本校の生徒たちは、3 年生にとって最後の大会、総体に向かって部活動に取り組んでいます。選手権大会に臨んでいる部活動も多いですが、そこでの経験を総体に生かしてくれたらと思います。

「部活の東中」とよく言われますが、ただ強いから言われているのではないと思っています。部活動を通して、努力の必要性、試合に臨むための気持ちの整え方、自主的な健康管理、仲間の大切さ、

試合展開等で思い通りにならない中でも自分をどう表現するか等を学びます。だからこそ、5 月 5 日(木)に限られた中ですが、公演をやり遂げた演劇部のように、文化部も頑張っています。

総体の日、最後の発表の日は近づいています。まずは、感染症対応をしっかりと行い、生徒が精一杯部活動に取り組むことのできる環境を整えたいと考えています。活動を通して、生徒が様々な面で成長していくことを期待しています。

